

GDP/IDF共同声明

国連フードシステムサミットに向けて

2021年3月

アントニオ・グテーレス国連事務総長が今年9月に開催する国連フードシステムサミットでは、将来の食料の生産と消費に関する強い提言が示されることとなります。「持続可能な開発目標（SDGs）」が、その目標年である2030年までに達成することが、現状ではほとんど難しい状況にある中で、サミット事務局は、SDGsを達成する取り組みのペースを速めるための突破口となる解決策（ゲームチェンジソリューション）を求めています。

世界の酪農セクターは、サミットの準備段階を通じて、世界レベルと国レベルの両方で、健康的で持続可能な食事への乳製品の貢献に関する情報を共有してきました。我々は、サミット事務局及び各国代表に対して、家畜産業が、女性や若者にとっての大きな機会を創出しながら、経済、食事（食生活）、そして環境面にももたらしている価値を、最大限活かすようなゲームチェンジングのための解決策を検討するよう求めます。

世界の酪農セクターは、持続可能な生産システムを通じて、世界の人々に安全で栄養価の高い食品を供給することに取り組んでいます。その公約は、2016年にIDF（国際酪農連盟）とFAO（国際連合食糧農業機関）の間で署名された「ロッテルダム酪農宣言」に表現されています。酪農は、SDGsのうち、特に「飢餓ゼロ」「貧困の緩和」「ジェンダー平等」に貢献しています。

牛乳乳製品は、世界中の社会に深く浸透した伝統的な主要食品で、世界中で何十億人もの人々が日々の栄養として利用しています。牛乳乳製品はもともと栄養価の高い食品で、良質なタンパク質、カルシウム、マグネシウム、セレン、リボフラビン、ビタミンB5、B12などの微量栄養素を豊富に含んでいます。牛乳乳製品が、世界の栄養と健康において重要な役割を果たしていることは科学的に証明されています。牛乳乳製品は生涯を通じて重要な栄養を提供しますが、特に子どもの栄養補給には重要であり、現在、世界の少なくとも1億6000万人の子ども達が学校での専用ミルクプログラムを受け、その恩恵を受けています。

牛乳乳製品は、使い勝手が良く、価格も手頃なため、世界中のさまざまな食事文化の中で、多様に利用され取り入れられています。弱い立場の人々におい

て高品質なタンパク源が不足している国でも、牛乳乳製品は手頃な価格の栄養豊富な食品であり、高品質な栄養を身近なものにする上で重要な役割を果たしています。同様に、第一級の栄養を提供するだけでなく、酪農乳業は多くの地域社会及び家庭に雇用と経済的安定をもたらします。

植物性食品と動物性食品についてあまりにも単純化して考えると、人間の健康に意図しない結果をもたらす可能性があります。動物性食品と植物性食品は、競合するものとして考えるべきではなく、栄養的、社会的、経済的、環境的に補完的で、異なる利点を提供する相乗効果のある食品源として考えるべきです。

世界には約1億3300万の酪農家があり、そのうち98%は小・中・大の規模を問わず家族で経営されています。酪農家は動物と土地を大切にしています。酪農は日常的な収入源となり、個人が貧困から抜け出すのに役立ち、農村部の家族が教育を受けやすくなるなどのメリットがあります。

酪農は、農村部の人々にとって最も安定した強固な生活の糧の一つです。酪農に関する議論、特に環境への影響やアニマルウェルフェアへの懸念に関する議論をする際には、栄養における重要な役割に加え、このことにも考慮する必要があります。

Covid-19のパンデミックで、他の多くの経済活動が休止を余儀なくされた時期に、酪農セクターが、世界の多くの地域の一部の低所得者や農村住民にとって唯一の持続可能な収入源であることで、その回復力が再び証明されました。

酪農の生産活動において、女性がますます重要な役割を果たしています。これは女性のエンパワーメントにプラスの影響を与え、その結果、社会の幸福に長期的かつ大きな影響を与えます。3700万の農場が女性によって運営されており、8000万人の女性が酪農セクターに従事しています。

酪農セクターは、そのダイナミックな性質と先見性によって、環境への影響を軽減するための革新を続け、気候変動への対策の一端を担うことができるでしょう。急速に普及している優れた手法や技術によって、畜産業は畑から食卓までの温室効果ガス（GHG）排出量を削減することができ、それは、今後数年間でさらに加速するでしょう。このことは、「ネットゼロ・低炭素酪農への道筋」に象徴されています。過去10年間の酪農セクターのGHG排出原単位が11%減少した点は注目されるべきでしょう。

環境に対し酪農が既に積極的な貢献していることも考慮する必要があります。

例えば、農地の約70%は限界地ですが、牛などの動物が放牧されることで生産的な食料システムの一部となります。さらに、世界の家畜飼料の86%は人間が食用にできないものです。乳牛は食べられない植物や産業副産物を人々のための高品質のタンパク質に改良します。酪農も再生可能エネルギーの原料（糞尿）を提供し、再生可能エネルギーへの移行に貢献しています。

酪農セクターは、文化的、地理的な違いにもかかわらず、世界中で機能する活気に満ちた適応力のあるセクターです。このセクターには、改善、効率性、回復力を促進するためのベストプラクティスと学習を促進する、強力な知識移転の文化があります。例えば、OIE（国際獣疫事務局）とFAOとの共同で出版した「酪農生産における適正な動物福祉のIDFガイド2.0」がその一例です。

酪農は栄養安全保障に貢献します。牛乳乳製品の貿易や取引は、食料安全保障にも貢献しています。酪農セクターは、科学的根拠に基づく国際基準の開発と実践を支援し、食品安全と責任ある動物管理を推進しています。

このような理由から、世界の酪農セクターはフードシステムの議論に積極的に参加しています。IDF、グローバル・デーリー・プラットフォームとそのメンバーは、国連フードシステムサミットの準備に貢献し、「学校給食プログラム」「デーリー・サステナビリティ・フレームワーク」「ネットゼロ・低炭素酪農への道筋」「アフリカに栄養を与える酪農」など、すべてのアクショントラックでゲームチェンジのための解決策を提案しています。

私たちは、今後も世界、地域、国内のダイアログに参加し、酪農セクターにおける持続可能な活動及びコミットメントの多くの具体例を共有していきます。

環境への影響を抑え地球を守るためには、ひとつのサイズで全てを満足させる食事はありませんし、ひとつだけの方法もありません。複数の選択肢と行動があります。フードシステムサミットを通じて、私たちのセクターが、食糧安全保障に大きく貢献していることへの理解を深める貴重な機会を得ることができます。

酪農こそが、「解決策」の一部なのです！

(仮訳：Jミルク・JIDF)